

「ゴイサギ」と「ホシゴイ」は・・・(3月の自然庭園では) トピックス~

～みぬま見聞館

このページを印刷する

このページではみぬま見聞館(大宮南部浄化センター)のトピックスを紹介します。

「ゴイサギ」と「ホシゴイ」は・・・(3月に自然庭園で観察できる動植物について)

日差しが暖かくなり、新緑も待ち遠しい季節になりました。

今月は、昼間だと首が無いように見える不思議な感じのサギの仲間「ゴイサギ」を紹介させていただきます。

「ゴイサギ」はペリカン目サギ科に分類され、サギの中では中型ですが、それでも体長60センチメートル程の大きさがあり、中々の迫力があります。外見も目を引き、ずんぐりとしたボディはペンギンに似ているかもしれません。そして、頭から背中は青みがかった黒色で羽はグレー、赤い目を持ち、後頭部には長めの冠羽があります。

さらにこの「ゴイサギ」は、幼鳥も他のサギとは違い、ボディのカタチこそ親鳥に似ていますが、カラダは灰色がかった褐色に白っぽい斑点が全身にあり、親鳥とは違う鳥かと思うほどで、別名「ホシゴイ」と言われています。

みぬま見聞館付近で見られるコサギやダイサギなど「シラサギ」の仲間や「アオサギ」は昼間に見かけることが多いかと思いますが、「ゴイサギ」は夜行性で、昼間は身を隠して体を休めているので、あまり見かけてないような気がします。

夜空を飛ぶときに「クワークワー」と鳴くため、「夜鳥（ヨガラス）」と呼ばれることがあるそうです。

「ゴイサギ」の名前の由来は、平家物語に出てくる逸話によるよう、醍醐天皇が庭にいたサギを家来に捕まえるよう命じた際に、大人しく捕まった様子に感心し、「五位」の位を授けたことからとされています。「五位」は、宮中に参内できるほど、けっこうエライくらいのようなので、驚きます。

今年もみぬま見聞館の自然庭園や敷地の脇を流れる芝川では、たくさんの野鳥が見られます。

先日みぬま見聞館主催の野鳥観察会が開催され、多くの方にご参加いただきましたが、2時間ほどの観察でゴイサギはもちろん、カワセミやタシギ、ダイサギやアオサギなど20種類以上の野鳥に出会うことができました。

みぬま見聞館付近では、埼玉県のレッドデータブックでは準絶滅危惧種とされているオオバンが多い日には50~80羽ほど集まり賑やかな鳴き声を響かせているほか、例年なくダイサギやアオサギ、そしてゴイサギなどサギ類が多く見受けられます。サギ類は自然庭園にも、ときどき顔を見せることがあります。

そんな野鳥たちの観察や、サンシュユやボケ、早咲きのサクラも咲き始めるであろう自然庭園で一足早い春を感じに、来てみませんか。

皆様のお越しをお待ちしています。



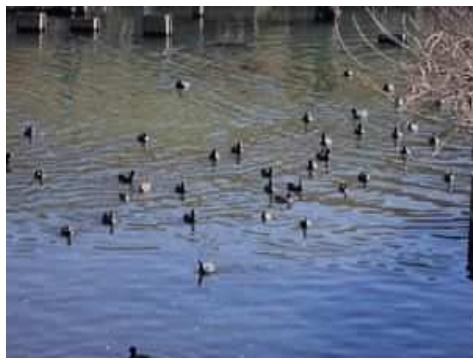
ゴイサギ
ペンギンに似ています！？



ホシゴイ
親鳥とはかなり違う模様ですね



昼間のよくあるゴイサギの様子
夜行性なので隠れて寝たり、ボーっとしています



自然庭園脇の芝川の様子
ここ何年もオオバンがたくさん集まります



アオリギとオオバン
今年はオオバンとサギ類、カワウが多く見られます



コサギとダイサギ
名前の通り、大きさの違いがわかります



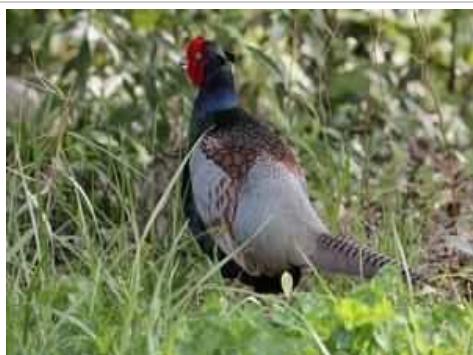
ダイサギ
羽根を広げて飛ぶ姿は迫力があります



ホオジロ
自然庭園や芝川でよく見かけます



コゲラ
小さなキツツキが必死に木をつづいています



キジのオス
鮮やかな色彩の国鳥はやはり目を引きます